



「ア・コールと18年」

ウィルあいち交流ネット参加グループ

平成9年度、男女共同参画社会支援セミナーを受講した私たちのグループ名が「ア・コール」と言います。当初30数名でしたが、現在は16名。ア・コールは一致・調和の意味のフランス語。そんな思いで発足して18年、セミナーに参加した当時の貴重な経験とともに、オドオドしていた自分を懐かしく思い出します。

「成人式には届かなかったけど、高校は卒業したね」メンバーの一人の言葉です。交流ネットに長年参加させていただきましたが、グループメンバーの検討の結果、卒業することになりました。

男女共同参画という単語が新鮮に響いたあの頃、鈴木礼二知事の時代です。最年少の私が41歳、年の差は25歳くらいでしょうか。様々な団体、または推薦での参加でした。碧南市の職員さんに勧めいただき、参加した私です。セミナーは興味深く、通ううちに楽しくなってきました。ただ周りの方々が立派に見えて少しタジ、それも思い出です。

今では自分の両親（89歳・85歳）に、「とうとう老老介護に突入ね」と笑われる年になりました。

男女共同参画の言葉が浸透し、また時代の流れも変化しています。社会参加も男女の別なく、家庭においても同様です。でも新しい流れになれば、また新しい課題が生まれてくるものです。人間として得意なことを伸ばしつつ、協調しながら、家事することを生きるためのスキルとして楽しむことができたなら、どんなにステキかと思うようになりました。若い世代が自信を持てるよう、ほめ上手な人になりたいものです。

会費を集め、細く長く続けてきました。卒業はしますが、このご縁は大切に続けていくつもりです。フットワークは少々鈍くなっておりませんが、どうぞお許しを。でもセミナー参加など、機会はあるはず。今後の御盛会を願っています。ありがとうございました。

ア・コール 長田 伸枝

- *さわらび会
- *メンズリブ名古屋
- *ア・コール
- *女性学'98の会
- *IPA
- *メディアの会かたつむり
- *ウィル10
- *A・B・C・Net
- *C・C・C
- *グループ・キートス
- *クラリネット'99
- *2000女性学の会
- *ウィル2000
- *I. W. L
- *ウィル・ミニ・ボックス
- *ウィルD○2002
- *平成いちご会
- *きらら2005
- *サーティネット '05
- *ベリーズ18
- *Step07
- *トライアングル '08
- *まちづくりファシリテーター勉強会
- *Fem.'09
- *Amelie' 10
- *なでしこAICHI
- *きりり24
- *AIC25
- *ウィルウィル14

ウィルあいち交流ネットとは…

ウィルあいちセミナー等の受講修了生による自主活動グループで組織された団体です。



共同参画 NATOでの勤務 (11)

「ジェンダー」—この大海原のような概念や関連する課題について説明する時、どのような言葉を使えば、聞き手に受入れられ理解されるのでしょうか。今回は、ジェンダー教育・訓練がテーマです。筆者にはPKO参加経験があるのですが、国連では全てのPKO要員にジェンダー教育の履修が義務付けられており、PKO要員による現地での性的暴力・性的搾取等の防止やPKO参加中の各種活動におけるジェンダー視点の意義等について学ぶ仕組みになっています。すなわち、これらジェンダーに関する知識はいまやPKO要員にとって不可欠なのです。

また、このジェンダー教育の他に、隊員の安全確保に関する必修科目でも性的暴力について言及されていました。これは前述とは逆の視点から見た性的暴力で、PKO要員にとって安全上のリスクの一つとして登場します。いわく、性的暴力が生起する背景には、「顔見知り同士」、「飲酒」等の要因が多々あり、時に男性も被害者になり得ること、対処法としては、まず加害者側に思いとどまらせること、それができない状況では被害の局限に努めること、特に激昂した加害者側にあくまでも命を取られてはならないことが明記されています。国連PKOには実に多くの国が参加しているため、共通規範はいわば「性悪説」に基づき多くのリスクを想定している点が印象的でしたし、これらの知識は現場で活動する際の安全確保上、非常に役立ちました。

NATOにおいても、国連の取組みを踏まえつつ、ジェンダー教育・訓練の充実を図っています。NATOでは、国連安保理決議第1325号「女性・平和・安全保障」のニーズやアフガニスタンにおけるNATO主導作戦の経験

等から、軍事作戦におけるジェンダー視点の意義が認識されてきました。そして、この履行を支えるのがジェンダー教育・訓練です。興味深いのは対象の広がりです。まず(1) NATO主導作戦等への派遣要員(NATOの作戦レベル)、次いで(2) NATO関連組織の全職員(NATOの戦略レベル)、そして(3) NATO加盟国/関係国の軍や国防省等の職員(加盟国/関係国の本国レベル)へと、裾野の拡大が図られています。対象と同時に、各種教育課程や教材等の開発も進められています。近年では、NATOの行う全ての教育・訓練にジェンダーの要素を反映する取組みが行われており、教育面では、政策決定者や将軍級のリーダーシップ層を対象とした「キーリーダーズセミナー」や、NATO主導作戦やNATOの戦略コマンド等で直接指揮官を補佐する「ジェンダーアドバイザーコース」等が年々充実されていますし、訓練面では、NATOの年次訓練である「危機管理演習」において、2014年には初めて訓練シナリオに性的暴力が盛り込まれた実績があります。さらに、加盟国/関係国の本国向けのジェンダー教材も開発され、インターネットで公開されています。

「ジェンダー」は幅広く、日本人には未だ聞きなれない分野ですが、まずは教育・訓練、知識の普及こそが変化の第一歩と言えそうです。(本寄稿は個人の見解によるものです)

内閣府男女共同参画局 共同参画より

NATO事務総長特別代表(女性、平和、安全保障担当) 補佐官 栗田千寿

[編集後記]

入学のシーズンとなりました。

真新しい制服を着た子どもたちを見かけます。

私にとって、はるか大昔となってしまいました。

S. I

編集発行：ウィルあいち交流ネット

編集協力：(公財)あいち男女共同参画財団